

産業日本語研究会シンポジウム

橋田 浩一

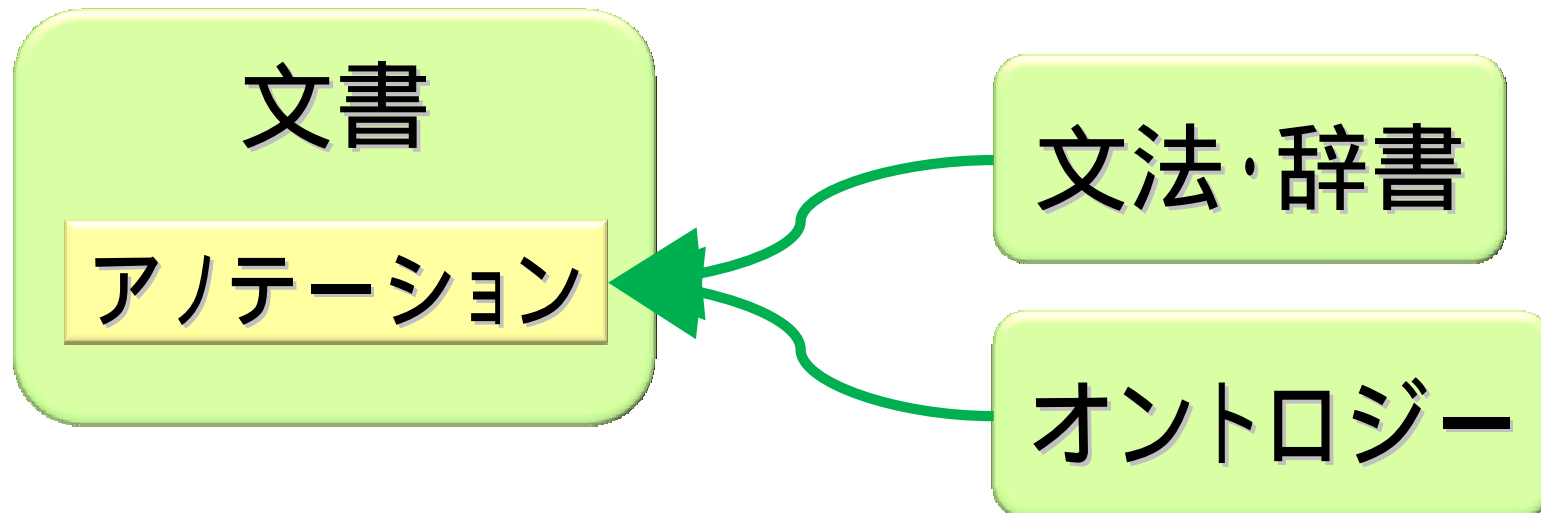
言語処理学会/産業技術総合研究所

産業日本語の目的と機能

- 情報力を強化した日本語
 - 産業技術情報等を客観的に表現
 - 知識循環を活性化し知的生産性を高める
- 人間同士のコミュニケーション機能の強化
 - 意味を正確かつ容易に表現できる・理解できる
 - 広い範囲(多様な産業分野や国々)での活用
- コンピュータの処理機能の強化
 - 文書処理(作成支援・検索・翻訳・要約など)の高度化
 - 文書処理から知識処理へ
- メディア間の連携の強化
 - 画像、図表、ダイアグラム、数式、化学式など
 - 多様なメディアによる表現の意味を明示

産業日本語の設計

- 人間とコンピュータが意味を共有
 - 標準化によるデータ連携



シンポジウムの趣旨

- 産業における言語の問題
 - 知財の確保
 - 国際標準の獲得
 - インフラ・サービスの輸出
- 産官学の連携
 - 産業日本語による問題解決

プログラム

- 開会あいさつ 橋田浩一(産総研)
- 第一部 13:10 ~ 16:25
 - 基調講演 長尾 眞(国会図書館)
 - 知識の創造と活用における言語の役割
 - 招待講演 宇治則孝(NTT)
 - グローバル環境の変化やサービス・技術のグローバル化への企業の対応
 - 招待講演 浅見節子(特許庁)
 - 特許における機械翻訳と明晰な日本語への要請
 - 招待講演 福永 泰(日立オートモティブシステムズ)
 - グローバル化における日本文化や経営理念の共有と産業日本語への期待
 - 招待講演 土井美和子(東芝)
 - 企業における国際化の現状と多言語対応の必要性
 - 招待講演 松井くにお(ニフティ)
 - Webサービスへの自然言語処理の適用のための産学官連携
- 第二部 取組・研究事例の紹介 16:25 ~ 17:40
 - 研究事例 井佐原均(豊橋技科大)
 - 産業日本語プラットフォーム委員会の活動について
 - 研究事例 橋田浩一(産総研)
 - JAPIOの特許版産業日本語委員会等の活動
 - 研究事例 隅田英一郎(情報通信研究機構)
 - アラジン・フォーラムが提供する言語処理ツールと言語データ
 - 全体討論